

令和3年度事業計画

1. 公益事業について

(1) 共同研究

- ・ 3H工法（スリー・エイチ工法）に関する研究開発（継）
- ・ 建設発生土トレーサビリティシステムに関する研究開発（継）
- ・ 山岳トンネルへのAI（人工知能）活用に関する研究開発（継）
- ・ セメント・コンクリート骨材の鉱物特性に関する研究開発（継）
- ・ 低空頭狭隘場所打杭に関する研究開発（新）

(2) 自主研究

- ・ 社会資本の管理システム（ISO19650シリーズに準拠して）（継）
 - イ 統合的な社会資本管理体制（IIMS）
 - ロ 調査設計、施工計画の立案、調達、施工及び施工監理、並びに竣工検査の自動化
 - ハ 建設事業に係る材料等の利用、追跡及び処理に関するもの
- ・ ネオ・ニューフロンティアの考察（継）
 - イ 当センター発足当時に想定されていた、建設事業に関するニューフロンティアの検証
 - ロ 50年後の社会を想定したネオ・ニューフロンティアの想定
- ・ ISO19650「BIMを含め、建築物及び土木構造物に関する情報の組成及び数値化—BIMを活用した情報マネジメント」シリーズの適用に関する研究（継）
- ・ ISO20887:2020「建築物及び土木構造物の持続可能性—分解と適応性のための設計」の適用に関する研究（新）

(3) 建設副産物リサイクル広報推進会議に関する事業

当センターは、建設副産物リサイクル広報推進会議の事務局を担っており、同推進会議として以下の活動を行う。

- ・ 建設リサイクル技術発表会及び発表会の開催
（アスティ徳島、11月25及び26日）
- ・ 機関誌「建設リサイクル」を電子媒体化で発行（4回）
- ・ 講習会の開催

- ・「建設リサイクルハンドブック」及び「よくわかる建設リサイクル」の販売

- ・会員活動の支援

等

(4) 先端建設技術に関する普及支援

わが国で開発された先端建設技術を国内外で普及するため、セミナーの開催等を実施する。

- ・WEBINAR 方式で先端建設技術セミナーを開催する。

- ・タイ王国バンコクにおいて、2022年に建設分野に係わる我が国の技術を紹介するセミナーを開催する準備を進める。

- ・国内において、先端建設技術の実用的な活用を促進するため、実務者を対象とした「先端建設技術ゼミナール」を開催する。

(5) 先端建設技術に関する広報活動

セミナー、機関誌、HP等を活用し、先端建設技術に係る最新動向を幅広く紹介する。

- ・技術情報の発信方法について新たに具体的な検討を行い、発信を始める。(YouTubeでの動画による発信を想定)

- ・建設技術フェアへの出展

等

2. 収益事業について

(1) 受託研究

- ・AI、インフラ用ロボット、新技術活用システム (NETIS)、技術適用可能性、施工の合理化・効率化、新材料の活用、建設副産物リサイクルを含む環境保全、個別プロジェクト監理などに関する受託研究を行う。

(2) 建設技術審査証明事業

- ・新しい建設技術の活用促進に資するため、民間企業等が自主的に研究開発した新技術について、有識者を交えてその開発目的が達成されていることを客観的に評価・証明する。本年度は、新規技術1件の評価・証明を見込んでいる。

3. 事業実施に係る体制

(1) 組織

- ・執行体制については、コロナ感染症拡大を契機とした「新常態」も見据え、業務ごとの執行管理をよりの確に行えるよう各部及び地方センターの担当業務を不断に見直すと共に、中長期的な観点から必要な人材の確保に努める。
- ・また、個人情報の保護を始め情報管理の徹底を図るため、内部規則等の履行の徹底を図る。

(2) 研究開発体制

- ・自主研究及び共同研究に係る研究会の充実を図ると共に、多様な分野の有識者や専門家などとの知的協力・協働ネットワークの構築を図る。